
第7回イスラム金融サービス委員会 (IFSB) サミットについて

日証協・平成 22 年 5 月 3～5 日

去る 5 月 3 日から 5 日の 3 日間にわたり中東のバハレーンにおいて、本協会がオブザーバー会員となっているイスラム金融サービス委員会 (IFSB) の主催による「第 7 回 IFSB サミット～グローバル金融アーキテクチャー：イスラム金融の課題」が開催された。

本サミットは、IFSB が毎年、会員向けに開催しているイベントであり、イスラム金融当事国等の関係者（中央銀行などの規制当局及び市場参加者）のうち指導的立場にあるキーパーソンをスピーカーとして招き、イスラム金融が現在直面している課題等に焦点をあてて、各国スピーカーが見解を述べ合い、それについて会場参加者も交えて討議する場である。

本サミットには、8 か国の中央銀行総裁（内 2 名は代行）、世界銀行・証券監督者国際機構 (IOSCO) などの国際機関からの代表等を含む計 21 名の著名スピーカーが迎えられ、また、聴衆として近隣の中東アラブ諸国のみならずアジア、アフリカ、欧州などムスリム・非ムスリムを問わずイスラム金融に関心を持つ広範な国々から約 200 名の参加があった。日本からも本協会以外に日本銀行、政府系金融機関、証券会社、投資顧問会社、経済研究機関から計 7 名の参加があった。

今回のサミットのテーマは、グローバル金融危機がもたらした一連の規制改革・規制強化の流れの中で、グローバル金融の一角であるイスラム金融についてもこうした議論を進める必要があるとの認識に立つものであった。このため、イスラム金融実施国にとどまらず、コンベンショナル金融のレギュレーターを代表する IOSCO や過去に金融危機を乗り越えたスウェーデン・韓国など非ムスリム諸国の金融当局者も招き、それらの提言や経験も参考にしつつ、イスラム金融機関の経営基盤の強化、効率的で流動性に満ちバランスのとれた市場の形成及び発展をどのように推進すべきか、またそのための適正な規制の枠組みをいかに構築していくかについて、議論・模索が行われた。一方、最近の相次ぐスクークのデフォルトで浮かび上がった投資家の法的権利の不安定さや不透明さが、これまで強靱 (resilient) といわれたイスラム金融システムへの信認を揺るがしているとし、イスラム金融関係者がこれに対する早期の対策を講じる努力をしなければ、イスラム金融の未来には影が射したままであるとの懸念・警鐘が主催者のラシード・アル・マラジ・バーレーン中央銀行総裁をはじめとして多くのスピーカーが言及した。

1 日目 (5 月 4 日) の議論は、IFSB 事務局長リファート・アーメド・アブデル・カリム教授のオープニング演説、バハレーン中央銀行ラシード・アル・マラジ総裁及びスーダン中央銀行総裁兼 IFSB 理事会議長サビール・モハメド・ハッサン博士の各基調講演の後、3 つのセッション

ョンが行われた。翌5日は午後1時まで2つのセッションが行われ、大会を閉幕した。なお、各セッションのモデレーターはイスラム諸国の通貨当局・中央銀行の各総裁クラス（5名）が務めたほか、スピーカー・パネリストも、イスラム金融の最前線で活躍する各国エキスパートや一流の規制当局者が勢ぞろいし、充実したセミナーであった。

なお、サミット前日の3日には、プレ・サミットと称して、IFSBが昨年暮れに公表したタカフル事業のソルベンシー要件のスタンダード¹に関する公開草案についての公聴会（パブリック・ヒアリング）、及びルクセンブルグとマレーシアのイスラム金融誘致に関するワークショップ（「カントリー・ショーケース」）が行われた。

なお、IFSBの2002年の創設以来、その発展にリーダーシップを発揮してきた事務局長のリファート教授は、今期限りで退任の見込みであることが報告され、また、次回の第8回IFSBサミットは初めて欧州のルクセンブルグで開催されることが決まった。

1. サミット・プログラム

[プレサミット・イベント]（5月3日）

時 間	テーマ	スピーカー
09:00-11:00	IFSB エクスポート・ドラフト 11（タカフル事業のためのソルベンシー要件に関するスタンダード）に関する公聴会	*カーティナ・アリッフィン女史：IFSB アシスタント・マネージャー *（顧問）サイモン・アーチャー教授、英国レディング大学、ICMA センター
11:30-13:30	ルクセンブルグ・カントリー・ショーケース	[モデレーター] *ムシュタク・パーカー氏：イスラム・バンカー・マガジン編集者 [パネリスト] *クロード・ジンマー氏：ルクセンブルグ中央銀行（BCL）取締役会メンバー *カミュ・トム氏：ルクセンブルグ投資信託協会（ALFI）ディレクター・ジェネラル *フェルナンド・グルムス氏：ルクセンブルグ金融センター開発庁 CEO *マーク・テイスン氏：弁護士

¹ 「タカフル(Takaful: イスラム保険) 事業のためのソルベンシー要件に関するスタンダード (“Exposure Draft 11 : Standard on Solvency Requirements for Takaful (Islamic Insurance) Undertakings”）」

19:00-20:30	マレーシア・カントリー・ショーケース夕食会	*モフド・ラジフ・アブド・カディール氏：マレーシア中央銀行副総裁 [特別講演] *マハティール・モハマド博士：前マレーシア首相
-------------	-----------------------	---



ルクセンブルグ・カントリー・ショーケース



マレーシア・カントリー・ショーケースで演説する
マハティール前マレーシア首相

[本会議]

1 日目（5 月 4 日）

時 間	テーマ	スピーカー
08:45-09:45	オープニング・基調講演	*リファート・アーメド・アブデル・カリム教授：IFSB 事務局長 *ラシード・アル・マラジ閣下：バハレーン中央銀行 総裁 *サビール・モハメド・ハサン閣下（博士）：スーダン 中央銀行総裁、IFSB 理事会議長
10:15-11:30	第 1 セッション 金融規制の環境変化：イスラム金融サービスへの示唆	[座長] *ラシード・アル・マラジ閣下：バハレーン中央銀行 総裁 [スピーカー] *モフド・ラジフ・アブド・カディール・マレーシア 中央銀行副総裁（ゼティ総裁の代行で出席） *ステファン・イングヴェス氏：スウェーデン中央銀行 総裁 *リー・ジャン・ユング博士：韓国金融監督院上級副 総裁

11:30-12:45	第2セッション イスラム金融商品の流動性管理のための新アーキテクチャー	[座長] *ドゥルムツシュ・イルマズ閣下：トルコ共和国中央銀行総裁 [スピーカー] *ジハド・アル・ワジール博士：パレスチナ通貨庁長官（欠席のため、代理によるプレゼン） *ポール・コスター氏：アラブ首長国連邦ドバイ金融サービス庁 CEO *ブランドン・デービス氏：英国ゲートハウス銀行取締役
12:45-14:00	第3セッション イスラム金融サービスに対するマクロ・プルーデンスシャル管理の問題	[座長] *アブドルラフマン・アル・ハミディ閣下：サウジアラビア通貨庁副長官 [スピーカー] *ライド・シェラフェッディーン氏：レバノン銀行第一副総裁 *ナイジェル・ジェンキンソン氏：国際決済銀行金融安定化委員会顧問 *ジャシーム・アフマド氏：アジア開発銀行東南アジア公共管理・貿易部門金融課ディレクター
19:00 -	夕食会：基調演説	[スピーカー] *ナイジェル・ダッドレイ氏：放送作家・出版人

2日目（5月5日）

時 間	テーマ	スピーカー
09:30-11:00	第4セッション イスラム金融の均衡のとれた成長 - 安定成長へ寄与するイスラム金融サービス業のセクター別構成	[座長] * イブ・メルシュ：ルクセンブルグ中央銀行総裁 [スピーカー] *ジェーン・ディプロック女史：IOSCO 執行委員会議長 *テオ・スウィー・ライアン：シンガポール通貨庁 Deputy マネジング・ディレクター *サイモン・アーチャー教授：英国レディング大学・ICMA センター

11:30-13:00	第5セッション 新しいイスラム金融アー キテクチャー：今後の展開	[座長] *サヌシ・ラミド・アミヌ・サヌシ閣下：ナイジェリ ア中央銀行総裁 [スピーカー] *トウンシュ・ターシン・ウヤニック博士：世界銀行 セクター・マネージャー *ハリッド・ハウラダー氏：アラブ首長国連邦ムディ ーズ・インベスターズ・サービス上級クレジット・ オフィサー
-------------	--	---

2. 講演の要旨

今年の IFSB サミットは、前回のシンガポールでの第 6 回大会、前々回のアンマン（ヨルダン）での第 5 回大会と同様、2008 年以降、世界が遭遇した未曾有の金融・経済危機という背景の中でイスラム金融がいかに独自の強靱性を発揮し成長を続けるか、また、その制度的未熟さを修正し、弱点克服のための制度設計をいかに推進するかという問題意識を前面に出したプログラム構成であった。

イスラム金融はもはやニッチな金融ではなくグローバル金融の一部であり、そのために、現在コンベンショナル金融の世界で急速に進展している規制見直しの議論を、イスラム金融も積極的にフォローしていくべきとする、サウジアラビア通貨庁アル・ジャセール長官や、マレーシア中央銀行ゼティ総裁などイスラム金融界のリーダー達の考えから、本サミットにはイスラム金融以外の分野からも多くのスピーカーが招かれ、コンベンショナルな金融世界の経験をも取り込もうとする方針が鮮明に打ち出されていた。（なお、会場参加者からはこうしたプログラムの構成自体、イスラム金融とは異なるコンベンショナル金融のロジックを無理やり適用するものではないかとの批判もみられ、また、規制当局者など上からの視点だけではなく、ビジネス（市場プレーヤー）側の視点をもっと反映させるべきとの声もあった。）

まず、IFSB 事務局長のリファート・アーメド・アブデル・カリム教授はそのオープニング演説の中で、G20 が提起し現在、世界中で議論が展開されているグローバルな金融規制と健全性の枠組みに関する議論は、イスラム金融サービス業にも適用されなければならないと述べ、クロスボーダーでの流動性リスクへの取り組みの重要性、そのための流動性管理ツールとしてのシャリア適格マネーマーケット商品の開発、金融安定化のための分析作業にとって不可欠なイスラム金融部門の脆弱性に関するデータ収集について改善・強化を呼びかけた。

次に基調講演を行ったサミット開催国バハレーンのラシード・アルモラジ中央銀行総裁は、いささか衝撃的なトーンで、イスラム金融がコンベンショナル金融に対してその強靱さ（resilience）において比較優位にあるとのこれまでの通説に疑問を投げかけ、特に、昨今の

スクークのデフォルト事例はスクーク投資家の権利に関して多くの複雑な問題を提起しており、イスラム金融関係者はこのことを深く受け止め、今後の市場継続のためには法的な確実性を早急に見いだす必要があると警鐘を鳴らした。

また、今年の IFSB 理事会議長であるサビール・モハメド・ハサン・スーダン中央銀行総裁の基調講演でも、流動性管理スキームの整備、シャリア解釈の調和と多様な法的枠組みのコンバージェンス（特に、昨今のデフォルト問題に鑑み、支払い不能、債権者の権利、契約の履行及び信託や証券化の形成に関する法的インフラの整備）、及び健全性スタンダードの実行に関する真摯な取り組みの必要性が強調された。

その後、5 つのテーマでセッションの議論が開始された。まず第 1 セッション（金融規制の環境変化：イスラム金融サービスへの示唆）では、ラシード・アル・マラジ・バハレーン中央銀行総裁の司会の下、モフド・ラジフ・アブド・カディール・マレーシア中央銀行副総裁（ゼティ総裁の代行で出席）、ステファン・イングヴェス・スウェーデン中央銀行総裁及びリー・ジャン・ユング韓国金融監督院上級副総裁の 3 名のスピーカーが、それぞれの立場から、昨今の国際金融市場の環境変化がイスラム金融にもたらす示唆について述べた。まず、今回のサミットを欠席したゼティ総裁のスピーチを代読したモフド・ラジフ・マレーシア副総裁は、4 つのインプリケーションについて触れ、イスラム金融への十分な配慮をしたうえでのコンベンショナル金融とのパラレルな規制改革への対応、市場原則と規制当局による監視のバランスのとれた運営、金融安定化に向けた強固な国際協力及び流動性リスク管理の改革を説いた。ステファン・イングヴェス・スウェーデン総裁及びリー・ジャン・ユング韓国金融監督院上級副総裁からは、両国ともかつて金融危機に見舞われた国としての経験を基に、金融システム強化への取り組みの課題について講演した。

第 2 セッション（イスラム金融商品の流動性管理のための新アーキエクチャー）では、ドゥルムツシュ・イルマズ・トルコ共和国中央銀行総裁の司会の下、ジハド・アル・ワジール・パレスチナ通貨庁長官（欠席のため、代理によるプレゼン）、ポール・コスター・アラブ首長国連邦ドバイ金融サービス庁 CEO 及びブランドン・デービス英国ゲートハウス銀行取締役の 3 名のスピーカーが、それぞれの立場、経験からイスラム金融の最大のネックの一つといわれる流動性の創出について、考え方を表明した。

第 3 セッション（イスラム金融サービスに対するマクロ・プルーデンシャル管理の問題）では、アブドルラフマン・アル・ハミディ・サウジアラビア通貨庁副長官の司会の下、ライド・シェラフェッディーン・レバノン銀行第一副総裁、ナイジェル・ジェンキンソン国際決済銀行金融安定化委員会顧問及びジャシム・アフマド・アジア開発銀行東南アジア公共管理・貿易部門金融課ディレクターの 3 名のスピーカーが、国際金融危機の経験で議論が展開されているマクロ・プルーデンシャル管理の問題をいかにイスラム金融に当てはめるかについてそれぞれの立場から、プレゼンを行った。

1 日目のセッション終了後に行われた夕食会では、ゲスト・スピーカーとして招かれた著名なジャーナリストのナイジェル・ダッドレイ氏が、同氏のイスラム金融についての長年の思い入れをユーモアと機知に溢れる話術で語り聴衆を沸かせた。

2 日目に行われた第 4 セッション（イスラム金融の均衡のとれた成長 - 安定成長へ寄与するイスラム金融サービス業のセクター別構成）では、イブ・メルシュ・ルクセンブルグ中央銀行総裁の司会の下、ジェーン・ディプロック IOSCO 執行委員会議長、テオ・スウィー・ライアン・シンガポール通貨庁デピュティ・マネジング・ディレクター及びサイモン・アーチャー英国レディング大学・ICMA センター教授の 3 名のスピーカーが、イスラム金融の各分野の成長をどのようにバランスをとりながら進めるかの問題について、それぞれの立場から意見表明を行った。

最後の第 5 セッション（新しいイスラム金融アーキテクチャー：今後の展開）では、サヌシ・ラミド・アミヌ・サヌシ・ナイジェリア中央銀行総裁の司会の下、トゥンシュ・ターシン・ウヤニック世界銀行セクター・マネージャー及びハリッド・ハウラダー・アラブ首長国連邦ムデイズ・インベスターズ・サービス上級クレジット・オフィサーの 2 名のスピーカーにより、イスラム金融の将来の方向性をテーマとして、講演が行われた。特に、ハリッド・ハウラダー氏のプレゼンでは、最近のシャリアと世俗法の対立をめぐる興味深い事例（Investment Dar Company (Kuwait) vs. Blom Development Bank (Lebanon)）が報告され、会場参加者を巻き込んで活発な議論が行われた。



サミットの会場の様子（パハレーンのリッツ・カールトン・ホテルにて）

以上